

試験研究成果普及情報

部門	花植木	対象	普及
課題名：輸出用植木類の養生技術			
[要約] 植木類を安全に輸出するために、イヌツゲ、イヌマキ、キャラボク、ゴヨウマツの根鉢の水洗・鉢上げ適期は、それぞれ4～7月、3～7月、3～5月、3月で、ピートモスに鉢上げ後、遮光率60%程度の遮光下で管理し、地上部をポリシートで覆うと、活着率が向上し、品質低下が防げる。			
フリーキーワード` 輸出用植木類、輸出、根洗い、養生			
実施機関名	主 査 農林総合研究センター・生産技術部・花植木研究室 協力機関 埼玉県農林総合研究センター、千葉県植木生産組合連合会 輸出入部会		
実施期間	2009～2011年度		

[目的及び背景]

欧米諸国における日本庭園ブームにより、千葉県をはじめとして造形樹の輸出が急増している。しかし、輸出相手国の1つであるEU諸国では、土壌中の植物寄生性線虫類に関して厳しい検疫体制を実施している。そのため、我が国から輸出した植木類の根鉢土壌から線虫がしばしば検出され、問題となっている。そこで根鉢の水洗、ピートモスへの鉢上げ、その後の養生までの管理技術を確立する。

[成果内容]

- 1 イヌツゲ、イヌマキ、キャラボク、ゴヨウマツの根洗い鉢上げ適期は、それぞれ4～7月、3～7月、3～5月、3月である（表1）。
- 2 根洗い鉢上げ後は、遮光率60%程度の環境下で2～3か月間養生する（表2）。
- 3 根洗い鉢上げ後の遮光に加え、さらにポリシートで地上部を覆うと、秋以降の新梢数が増加し、品質が向上する（表3、表4）。

[留意事項]

- 1 植木根鉢の水洗は、水道より若干高い圧（2.5kgf/cm²）の流水で行う。高圧洗浄は根を傷めるため避ける。
- 2 被覆したポリシートは、被覆1～2か月後より少しずつ穴をあけ、徐々に環境に慣らす。
- 3 ピートモスは、保水性が良いため過剰な灌水は行わない。半年栽培すると、根が完全に再生し長期輸送に耐え得る株に仕上がる。

[普及対象地域] 県内全域

[行政上の措置]

[普及状況]

[成果の概要]

表1 各樹種の根洗い鉢上げ時期の違いが活着に及ぼす影響（平成21年11月調査）

試験区	鉢上げ時期	供試株数	健全株数
イヌツゲ	3月	3	0
	4月	3	3
	5月	3	3
	6月	3	3
	7月	3	3
イヌマキ	3月	3	3
	4月	3	3
	5月	3	3
	6月	3	3
	7月	3	3
キャラボク	3月	3	3
	4月	3	3
	5月	3	3
	6月	3	2
ゴヨウマツ	3月	3	2
	10月	3	0

注1) ゴヨウマツの鉢上げ時期10月は、平成20年に行ったもの、
他の鉢上げは、平成21年に行った

表2 イヌツゲの根洗い鉢上げ後の遮光処理が活着に及ぼす影響（平成22年8月調査）

試験区	供試株数	健全株数
遮光	3	2
無遮光	3	0

注1) 平成22年5月に根洗いしピートモスに鉢上げ後60%遮光下で3か月間養生した

表3 根洗い鉢上げ後の地上部ポリシート被覆が植木類の生育に及ぼす影響

樹種	試験区	活着率 (%)	地上部品質 (不良：0－5：良)
イヌマキ	ポリ有	100	4
	無	100	3
キャラボク	ポリ有	100	4
	無	100	4
イヌツゲ	ポリ有	50	1
	無	25	0.5

(平成24年1月10日調査)

注1) 平成23年4月5～10日に根洗いしピートモスに鉢上げ

2) 基幹枝が枯死した株は、商品性が失われたため未活着とした

3) 地上部品質は、0：枯損、1：不良（玉の一部が枯死）、2：やや不良（落葉が多い）、3：普通（状態維持）、4：良（新梢が伸長）、5：優良（濃緑で生育旺盛）で示した

表4 根洗い鉢上げ後の地上部ポリ被覆の有無が
イヌマキの生育に及ぼす影響（平成24年1月10日調査）

試験区	新梢数 (本)	新梢長 (cm)	秋枝長 (cm)
ポリ被覆	18.1	6.3	3.1
無被覆	12.3	3.3	0.9

注1) 平成23年4月5～10日に根洗いしピートモスに鉢上げ

[発表及び関連文献]

- 1 植木・盆栽類の輸出マニュアル（平成24年3月）
- 2 園芸学会平成23年度秋季大会「植木類を安全に輸出するための根の水洗・鉢上げ技術の開発」

[その他]

平成21～23年度新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業
「植木・盆栽類の輸出促進に向けた線虫対策及び生産・輸送技術の開発」